土合小学校　学校だより

くすのき

学校のシンボル
くすの木

令和６年度 第９号

令和７年１月７日

さいたま市立土合小学校

規範意識の大切さ

校長　白倉　秀樹

新たな年を迎えました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様はゆっくりとした時間を過ごせましたでしょうか。今日から３学期が始まりました。今年度のまとめとなる３学期です。今年も子どもたちが楽しい学校生活を送れる土合小学校を築くために様々なことに挑戦していきたいと考えております。

あいさつなど人が人と関わる方法や規範意識というのは、これまでの経験や学習から学んだことをもとに、正否や善悪といった価値判断として身に付けます。ところが最近、自分で判断できないことに対して、「その人の自由」と定義し、自分の責任を回避してしまう傾向が増えてきたと感じております。また、社会性の低下ということが話題となっても、個人の好みや主義とした問題として片付けられ、人と違うことをすることが個性であり、それを助長するような声を聞くことも多くなりました。

規範意識から照らし合わせると明らかに間違っていることも、個性だから良しというような風潮も見受けられます。たとえば公民館や図書館、学校などの公共施設の使い方、自動車や自転車の道路での運転の仕方、などです。規範意識の中で治めるべきことが治まらず、話が大きくなりルールの厳重化に発展することは悲しいことであると感じています。ルールによって正否や善悪を判断する前に、規範意識、すなわちマナーやモラルといった段階で判断できることが必要であると考えます。

個性は人間にとって大切であるものという認識は私も同じ考えです。ただ、人間は自由だ、だから何をしてもいいのだという話は社会では通用しません。個性を認めるということと規範意識を定着させることは両立していかなければならないものです。今学校において子どもたちが学ぶべきことに、この規範意識というものが挙げられます。土合小学校には「土合小のきまり」というものがあります。こういったきまり（ルール）を通して規範意識の存在を実感させることが大切です。これは、自分の存在と共に相手の存在を尊重できる責任ある姿勢を培うことにもつながります。

規範意識を育てる時、私は２つのことが重要であると考えています。１つは「聞く耳」をもつことです。規範意識と照らし合わせ、良かれと思って注意をしたら逆に仇となり悲惨な事件に発展したという話を耳にします。自分は常に正しいと思わず、何かしら修正していかなければならない存在と思えば、自ずと聞く耳を持つことができるはずです。

もう一つは、子どもを取り巻く私たち大人が、育ってほしいというモデルとなる「姿」を示すことです。人生の良き先輩として身をもって規範意識の存在を示し続け、子どもたちに規範意識の大切さを気付かせることは大人の責務です。こういった姿勢こそが「教育は人なり」という考え方の根源だと思います。今一度自分自身の規範意識を見直したいと思います。今年もどうぞよろしくお願いいたします。